

日本医史学雑誌 第66巻 第3号

目 次

原 著

- 廣田伝亮（泌，子泉）の「見聞録」と1820年代初期の春林軒における医療
..... 松木 明知 245

総 説

- Mythology in *Kojiki*: A Medical Perspective Kosuke YASUKAWA 267

研究ノート

- 『六大新報』年賀広告にみる東寺濟世病院における従事医師の推移と病院の変遷
..... 八木 高秀 284

ひろば

- 「時に癒し、しばしば和らめ、常に慰む」
~guérir quelquefois, soulager souvent, consoler toujours~
~to cure sometimes, to relieve often, to comfort always~
この格言の由来について 森岡 恭彦 300

資 料

- 暴瀉病について その1 ——上原元伯『暴瀉病ニ付』—— 服部 瑛 305
『医学館要秘録』上 町 泉寿郎 308
池田文書の研究 (64) (最終回) 池田文書研究会 328

記 事

- 消 息
〈国際学術シンポジウム〉「人文学からみた身体・生命・韓医学
—『東醫寶鑑』と日韓両国の食治文化—への参加 吉田 和裕 338

- 例会記録 339

例会抄録

- 江戸時代の医療とジェンダー～「女医師」を中心に 鈴木 則子 339
在ドイツ森林太郎あて書簡にみる帝国大学医科大学事情 (その2)
..... 岡田 靖雄 341

書 評

- 只見町教育委員会 著『医家原田家書籍目録
(只見町文化財調査報告書 第21集)』..... 松村 紀明 342
西迫大祐 著『感染症と法の社会史——病がつくる社会——』..... 渡部 幹夫 344
町泉寿郎 編『講座 近代日本と漢学 第3巻 漢学と医学』..... 萱田 寛也 346
安藤昌益と千住宿の関係を調べる会 (佐藤元菘日記解説班) 編
『佐藤元菘日記』..... 町 泉寿郎 348

書籍紹介

- 小曾戸洋 ほか 編『日本医家伝記事典——宇津木昆台『日本医譜』——』
..... 松村 紀明 351
- 安田登・久保寺司・水谷惟紗久 著『歯科医療のシステムと経済
——18世紀から21世紀まで——』 永島 剛 351
- 投稿規定 353
- 編集後記 355

《本号の表紙絵》

「アームチェアに座る男の頭を殴るインフルエンザ・ウイルスのモンスター」(1918年)

(A monster representing an influenza virus hitting a man over the head as he sits in his armchair.

Pen and ink drawing by E. Noble, c. 1918. Credit: Wellcome Collection.)

第一次世界大戦さなかの1918年春頃からパンデミック化した新型インフルエンザ。1920年頃までに全世界で数千万人が死亡したといわれる。

1892年にドイツの細菌/免疫学者ファイファー (R. F. J. Pfeiffer) が、「インフルエンザ菌」と名付けられた細菌の存在を報告していたが、1918年当時のイギリスの保健当局者のレポートを読むと、その細菌とは別の、未知の病原体が流行を引き起こしているのではないかという認識が、このパンデミック初期に広まりつつあったことがわかる。インフルエンザ・ウイルスの存在が判明したのは1930年代のことだが、このときすでに病毒という意味で「ウイルス (virus)」という語は一般的に使われていたようである。(参考文献: Arthur Newsholme, “Discussion on Influenza”, *Proceedings of the Royal Society of Medicine*, 1919, 12, pp. 1-18.)

表紙絵として掲載した戯画は、イギリスの漫画家 (cartoonist) アーネスト・ノーブルによるもの。「こんばんは、私が新たなインフルエンザだ！」というセリフが付されている。画自体はユーモラスだが、検査手段もなく、突然に個人を襲う、得体の知れない病原体の怖さが表現されているとみることができるかもしれない。

(永島 剛)